

# デジタル配列情報(DSI)に関するオープンレターへの署名のお願い

2022. 4. 21

国立遺伝学研究所 鈴木睦昭

[msuzuki@nig.ac.jp](mailto:msuzuki@nig.ac.jp)

生物多様性条約会議(CBD)にて、DNA塩基配列を一例とするデジタル配列情報(Digital sequence Information、以下DSI)の利益配分に関して議論がなされており、今年後半に開催予定のCOP15第二部(昆明)において何らかの決定がなされる。現在遺伝資源の入手時の事前許可や契約の義務等のアクセスと利益配分(ABS)が国際的に義務化されているが、同様の措置がDSIにも課されると、DNAの公的データベースの利用や生命科学研究において、過度の負担が生じることとなり、停滞の一因にもなりえる。

現在、世界中の科学者コミュニティが、懸念を示し、いくつかの対応を行っている。そのひとつとして、ドイツのカルチャーコレクションであるDSMZが中心となり、ドイツ教育省からの資金の下、DSI Scientific Networkが研究者の立場からの活動を行っている(<https://www.dsiscientificnetwork.org/open-letter/#indiv-signatories>)。

この度、DSI Scientific NetworkがCBD締約国に対し、オープンサイエンスの保護、研究者の発言権などに関する要請を含むオープンレターを作成し、署名機関・団体および個人署名者を募っている。つきましては、DNAの塩基配列の自由な利用が阻害されることで研究活動の停滞を防ぐために、研究者の皆様にご署名をお願いしたい。

## 要請事項

我々はCBD締約国に対し、以下を要請する。

- 研究者が、国策制定過程、DSIの選択肢の検討、CBDの公式・非公式なプロセスにおいて、確実に発言権を持つようにすること。
- DSIの生成とグローバルシステムへの貢献を奨励する多数国間利益配分アプローチに対する科学界からの要請に耳を傾けること。
- これらの交渉の結果が科学的プロセスの現実を反映し、現在世界中の何百万人もの利用者に何十億もの配列を提供している何千もの相互リンクされたデータベースを考慮することを確実にする。
- DSIへのオープンアクセスを支援する。オープンアクセスは研究と革新を促進し、科学的再現性を向上させ、公衆衛生の危機への迅速な対応を可能にし、能力開発と国際協力を促進し、トレーニングと教育を促進する。
- 名古屋議定書や他の条約の経験から学び、規制の複雑さと研究コストを増加させ、資源が特に乏しい発展途上国に不釣り合いに影響を与えるようなDSIの新制度を回避する。
- 国連の持続可能な開発目標を達成し、2020年以降の生物多様性世界フレームワークを実施したいのであれば、開放性を守り、利益配分を確保するバランスの取れたアプローチを見つけなければならない。DSIに対するオープンで公平な解決策がなければ、科学界は研究を行い、現在の環境と健康の危機に対する解決策を開発する能力に支障をきたすことになる。